The Whisper from Amherst

エミリィのささやき

欧米で身近な動物といえば、リスもそのひとつでしょう。日本のペットショップでよく見かけるのは、体毛が茶色で背中にしま模様があるシマリスです。アマースト町に生息しているのはおそらくトウブハイイロリスではないでしょうか。海外では、野生の動物がほどよく人間と共生している環境をよく見かけます。

かつて、ディキンスン家には温室が付随して建っていて、エミリィは温室や庭の花の世話や観察をして忙しく過ごすこともありました。そして、花や木々だけでなく、様々な生き物たちとここで出会っていたのでした。

“I’ll tell you how the Sun rose ー”

I’ll tell you how the Sun rose -	どんなふうに日が昇ったか　お話しましょう
A Ribbon at a time -	しばらくの間　一筋のリボンでした
The Steeples swam in Amethyst -	尖塔が　紫水晶の中を泳ぎ
The news, like Squirrels, ran -	知らせは　リスのように走り
The Hills untied their Bonnets -	丘は　帽子を取り
The Bobolinks - begun -	ボボリンク鳥は　歌い出しました
Then I said softly to myself -	そこで　私はそっと一人言を言いました
“That must have been the Sun”!	「あれはお日さまだったのね！」
But how he set - I know not -	でも　どんなふうに沈んだかは　知らないのです
There seemed a purple stile	紫色の階段があったようでした
That little Yellow boys and girls	小さな黄色の男の子と女の子が
Were climbing all the while -	ずうっと登っていって
Till when they reached the other side,	とうとう　向こう側にたどりつくと
A Dominie in Gray -	灰色の牧師さんが
Put gently up the evening Bars -	やさしく夕べの閂（かんぬき）をあげて
And led the flock away -	皆を連れていきました

(編集工房ノア「エミリの詩の家」 武田 雅子 著より)

リスや鳥の動きがとてもすばしこく、かわいらしく描写されているので、この詩を読んでいると心がはずみます。そして、色鮮やかな描写は子どもの絵のようです。この詩を書いた日は、お日さまがどんなふうに沈んだかわからなかったくらい何かに没頭していたようですが、日の沈むようすを躍動感たっぷりに書いた詩も残っています。